

2012 年度 国立衛研 一般公開

医薬品や食品等の品質確保、安全性、有効性を求めて

企画調整主幹付 宮原 誠

7月28日(土曜日)、国立衛研の一般公開が行われた。朝からの暑さにかかわらず、多くの来場者で、正面入り口付近は混雑した。各部は最近の話題や長年の研究成果を展示したり、あるいはミニ講演会ならびに展示実験などで日頃の研究の成果を一般の人々にアピールした。公開テーマの数は各研究部と附属施設から1件づつ、合計21件であった。午後には衛研講座も例年どおり開講され、人々で会場は一杯になった。午前10時から始まった公開は午後4時に終了した。

朝から気温が30度を超え、厳しい暑さの中、220人余りの来場者があった。ロンドン・オリンピック開会式のテレビ中継を見終わって、駆け付けた人もあったようだ。また、夏休み中の親子連れ、中学生・高校生などが目立った。自転車置き場が一杯になるなど衛研近隣の方々の関心も高く、これは昨年設置した掲示板の効果かもしれない。

医薬品関係の部からは、話題のジェネリック医薬品、バイオ医薬品に関わる生物、将来自分が罹る病気を予測する診断薬、副作用の予測方法の紹介、手術に使う材料や補助機器などの展示があったほか、生薬の確認試験法について歴史的順に展示実験を行った。食品関連の部からは、食品添加物の一日あたりの摂取量の研究、食品中に残留する農薬の分析方法の研究、遺伝子組み換え食品の検査法の研究、健康食品の安全情報の解説のほか、ビジュアルな食中毒菌の検査方法の説明、腸管出血性大腸菌などの食中毒菌の解説やその毒素発現の

メカニズムの研究成果が紹介された。生活衛生関係では、日常の家庭用品に含まれる有害物質が引き起こすアレルギーなどの解説があった。生物安全性関係では、実験動物の保護のための3Rの説明、化学物質の安全性の評価方法とそれによる規制基準値の決定方法の説明、遺伝毒性の調べ方、体内に取り込まれた化学物質が体に及ぼす影響についての解説、最近問題となっている低容量毒性・シグナル毒性についての説明があった。その他の部門で、蛍光物質の発光を調整する仕組みを実験で展示したり、廃棄物の処理システムの見学などがあった。ここに観葉植物などの配布やヨーヨー釣などのコーナーがあり、人気を集めた。衛研講座の演題は「食中毒の新顔をご紹介します！」と「動物実験の3Rs」で、30分ずつ講演が行われた。これらの講演や公開テーマの詳しい内容は

http://www.nihs.go.jp/oshirasejoho/ippankokai/h24/3.theme_naiyou.pdfにある。



衛研講座会場の大野所長

東京 世田谷用賀 国立衛研講堂にて撮影 2012 年